



泣きたい気分

【千葉県】錦織明日香 36歳

どうしてそんなに泣くの。お願いだから、30分でいいから寝かせてー。

深夜3時。私は生後3日目の第一子である息子を抱いて、入院している個室を何時間もぐるぐると歩き回り続けていた。息子は、朝も昼も夜も、とにかくよく泣いた。

翌朝、検温に来た私より少し年上の看護師さんが「大丈夫ですか？」と声を掛けてくれた。寝不足と疲れて、ひどい顔をしていたのだろう。その一言で、私は思わず泣き出してしまった。「この子、ずっと泣いてばかりなんです。私がつまき育児できてないからでしょうか」看護師さんは微笑んだ後、私がつけている授乳記録の紙に目をやり

「昨晚、夜通し1時間ごとにおっぱいを吸わせてあげたんですね。頑張りましたね、お母さん」と励ましてくれた。そして、内緒話をするように私に近寄った。

「私の娘も、赤ちゃんの時にそれはよく泣く子だったんです。おっぱいもあげたし、オムツも替えた、室温も適温、衣類も寝具も確認した。なのに、どうしてまだ泣くのとつらかった。そんな娘が年長さんになった時、私、本人に聞いてみたくんです。どうして赤ちゃんの時、あんなに泣いていたのって。そしたら娘、何て言ったと思います？『だって、泣きたい気分だったんだもん』ですって！ 本当か嘘か分からないけど、そう言われちゃうとしようがない

いかって思えちゃってね」

看護師さんは、情緒不安定な私の背中を優しくさすりながら続けた。「そうは言っても、今がづらいですよ。でも、よく泣く赤ちゃんはいるし、それはお母さんのせいじゃないですよ」

私だけじゃなかったんだ、と救われた気分になった。その後、よろしければしばらく赤ちゃんを預かりますと、看護師さんが息子を新生児室に連れていってくれ、私は眠ることができた。

退院後、あいかわらず息子はよく泣いたが、つらい時には看護師さんの話を思い出した。この子も「今泣きたい気分」なのかなと思うと気持ち少し軽くなった。